

ニシキソウの仲間を写真と図で見分ける

原図 桑原義晴 全国農村教育協会 廣田伸七

ニシキソウの仲間は畑地、芝生、庭などに普通にみられる。形は小型だが多くは地面にへばり着くようにして生育するので除草するのに苦労する雑草である。因みにコニシキソウ、ニシキソウの方言を調べてみたらジシバリ、ジバイグサ、ザブトングサと地面一面に這って広がる様子を現したもので、チーグサ、チチグサと茎を切ると白い乳汁を出す様子からつけられたものから、ヨメナカセと面白いものもある。ニシキソウの仲間は草は小さいが地面にピタッと張りついているので除草しにくく、しかも茎を切ると白い汁が出てきてそれが手に付くと黒く固まって洗っても容易には落ちない。時期は最夏の炎天下であるから汗が流れ、うっかりその手で汗を拭くと顔が真黒になる。人によってはこの汁でかぶれることがある。正に嫁泣かせがピタリの表現である。

この厄介なニシキソウの仲間を写真と図で見分ける企画を立てた。百聞は一見にしかず！ 違いが理解できれば幸甚である。



①コニシキソウ ②オオニシキソウ ③ニシキソウ



▲左からニシキソウ、コニシキソウ、オオニシキソウ

シマニシキソウ (*Euphorbia hirta* L.)

成植物, 斑紋のあるものとないものがある



熱帯アメリカ原産の一年生草本，帰化植物。南北アメリカ，アフリカ，アジア，オーストラリアなど熱帯～暖帯に分布。日本には古い時代に入り，本州近畿以西にみられ九州・沖縄では畑地の普通雑草になっている。茎はよく分岐して地表をほふくまたは斜上して高さ20～40cm，赤褐色～紫色を帯び白色の短毛と黄褐色の長毛がある。全草に乳液を含み切ると乳汁が出る。葉は対生，長楕円状卵形～披針形で長さ2～3cm，縁に細鋸歯がある。葉の表面にしばしば濃紫色の斑紋を生じる。杯状花序は小さく，短い柄の先に密に集まり球状となる。



成植物



成植物, 花序は球状となる



オオニシキソウ (*Euphorbia maculata* L.)

上・花, 下種子



果実と花 果実は無毛

北アメリカ原産の一年生草本，帰化植物。南北アメリカ，ヨーロッパ，アフリカ，アジア，ニュージーランドなど熱帯～暖帯に分布。日本には明治末期に入り，本州以南では普通にみられる。茎は直立または斜上し，上部で分岐して高さ 50～100 cm，円柱形で紅色を帯び一方の側に短毛がある。全草に乳汁を含み切ると乳汁が出る。葉は対生，卵状長楕円形～長楕円形で長さ 1～3 cm，縁に低い鋸歯があり基部は円く左右が不揃い，表面は斑紋がないものとあるものがある。杯状花序は枝先にまばらに着く。ニシキソウの仲間では大形で葉も大きく，草丈も高い。



片側に毛がある



花はまばらに着く



成植物，葉に斑紋があるものとないものがある

ニシキソウ (*Euphorbia humifusa* Willd. var. *pseudochamaesyce* Murata)

花は葉腋に着く



成植物，葉に斑紋はない



ニシキソウは今回掲載したニシキソウの仲間の中で唯一の在来種である。本州、四国、九州に分布する。畑地、芝生、庭などに普通に生育し、茎は紅く、普通2又に分岐し、それがまた2又に分岐して地表を這って四方に広がり、長さ20～30 cm、まばらに毛があり、茎を切ると乳汁が出る。茎はときに立ちあがるものもある。葉は対生、長楕円形で無毛、表面に斑紋はない、長さ5～15 mm、縁に細鋸歯がある。夏～秋に葉腋に数個ずつ淡い赤紫色の花を着ける。ときに秋に葉が紅く紅葉する。



幼苗

コニシキソウ (*Euphorbia supina* Rafin.)

成植物、葉に斑紋が明瞭



花と果実



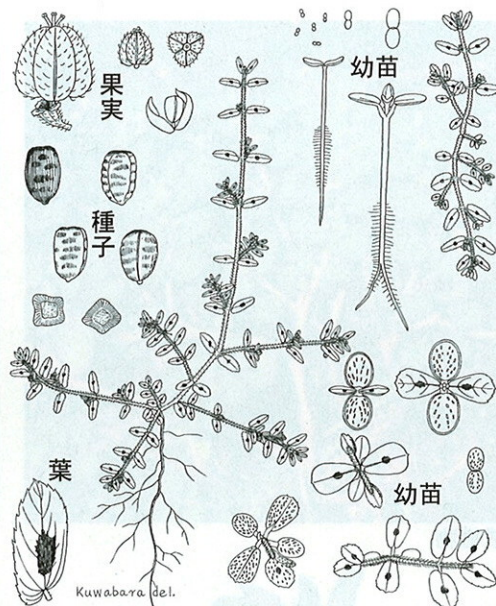
果実に毛がある



種子



幼苗



北アメリカ原産の一年生草本、帰化植物。北アメリカ、東アジア、ニュージーランドなど温帯に分布する。日本には明治20年頃に入り、現在は北海道から沖縄まで全国に見られる。茎は暗赤色を帯びて白毛があり、よく分岐して地面を這って広がり、多くは地面に張り着いたように広がる。長さ20～30 cm。切ると乳汁が出る。葉は対生、長楕円形、長さ5～10 mm、縁に1～3対の浅い鋸歯があり、表面は濃緑色で中央に暗紫色の斑紋があるのが特徴。ニシキソウの仲間では個体数が最も多く、畑地などでは本種が最も普通に見られる。



花

アレチニシキソウ (*Euphorbia chamaesyce* L.ssp. *massiliensis* Thell.)

成植物



葉に斑紋がなく、白い毛が目立つ



花

果実、稜に
長毛がある

アレチニシキソウは帰化植物で原産地不明、学名不詳とする説と、ハイニシキソウよりも大型のものを亜種としたものという説があるが本稿の学名は後者によった。日本では1950年頃から西日本で採集されたという報告があり、現在では本州関東以西から九州に分布。一年生草本で茎は暗赤色を帯びよく分岐して地表を這って広がり、縮れた白軟毛が密にあり、長さ10~20 cm。葉は対生、楕円形、縁は低鋸歯、長さ4~8 mm、表面は無毛か軟毛、裏面に白軟毛が密生し表面に斑紋がない。一見コニシキソウに似るが葉に斑紋がなく、やや厚味があり、茎葉に白軟毛が多くあるのが特徴。

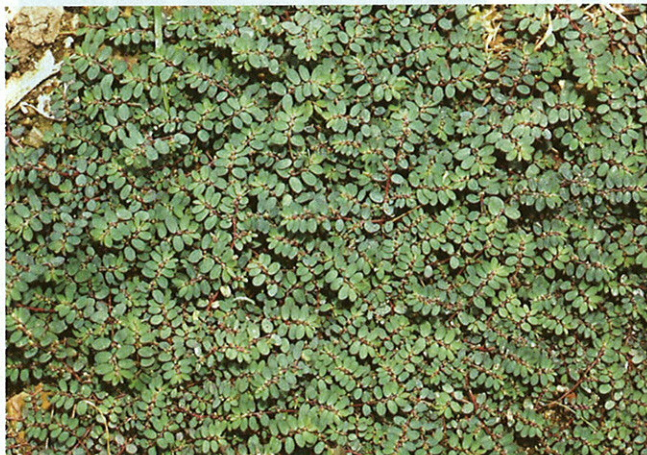
成植物、地表を這って広がる



ハイニシキソウ (*Euphorbia chamaesyce* L.)

チャボタイゲキ(キダチニシキソウ) (*Euphorbia peplus* L.)

ハイニシキソウ成植物



チャボタイゲキ成植物



ハイニシキソウは熱帯アメリカ原産の一年生草本、帰化植物。北アメリカ、南ヨーロッパ、アフリカ、中東アジア、オーストラリアなど熱帯～暖帯に分布し、日本には南西諸島、小笠原に古い時代に入り、1960年に九州地方に入り現在では関東地方以西に広がっている。茎はよく分岐して地表を這い四方に伸び、長さ10 cm、白毛がある。葉は対生、楕円形で長さ4～8 mm、縁に浅い鋸歯、表面にまばらに毛があり、斑紋はない。杯状花序は葉腋に出て三角形の果実の稜上に白毛がある。

チャボタイゲキ(キダチニシキソウ)は南ヨーロッパ原産の一年生草本。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカなどに分布し、日本では1940年代に長崎で採集され現在は関東地方や近畿地方で見られる。茎は直立し、ときに分枝して高さ10～30 cm、無毛。葉は互生、短い柄があり広卵形～楕円形で長さ1～2 cm、全縁。茎頂にやや大型の葉が輪生する。花は枝の先端に緑白色の目立たない杯状花序を形成する。果実は扁球形で表面に翼がある。

ーコニシキソウの仲間の比較ー

項 目 草 種	茎	葉	果 実	種 子
シマニシキソウ	斜上または直立する。 赤褐色～紫色を帯びる。 上部に黄色の長毛がある。	長楕円状卵形～披針形。 細鋸歯。紫色の斑紋がある ものとないものがある。	全面に軟毛が 密生。	網目状の しわがある。
オオニシキソウ	斜上または直立する。 紅色を帯び片側に1列の 短毛がある。 ジグザグに伸びる。	卵状長楕円形～長楕円形、 無毛。鋸歯は3～5対。 斑紋がないものとあるもの がある。葉は一番大きい。	無毛。	網目状の しわがある。
ニシキソウ	地表面を這いときに斜上。 無毛かまばらに毛がある。	長楕円形、無毛。斑紋はない。 鋸歯は3～5対。	無毛または まばらに短毛。	しわは明瞭 でない。
コニシキソウ	地表面を這う。暗赤色を帯びる。 上部に短毛が密にある。	長楕円形、鋸歯は1～3対。 暗紫色の斑紋が明瞭。	全面に白毛がある。 花序は集散花序。	網目状の しわがある。
アレチニシキソウ	地表面を這う。 暗紫色を帯びる。 上部に短毛が密にある。	楕円形、鋸歯は低い。 表面は無毛か軟毛、裏面は 白毛が密生。斑紋はない。	稜に長毛がある。	
ハイニシキソウ	地表面を這う。 上部に短毛が密にある。	楕円形、両面無毛。 斑紋はない。	稜に長毛がある。	網目状の しわがある。
チャボタイゲキ (キダチニシキソウ)	直立、無毛。	広卵形～楕円形。 先が円く全縁。斑紋はない。	表面に翼がある。	

(注) コニシキソウ、ニシキソウは節から根を出すという報告がある。